

考案して見ると、W型においては、プランと実際とのずれがM型よりも小である。

A-2 青年の消費行動と性格について

日本女子大学 児玉 省
広島女子短大○鹿股寿美江

青年の夏季休暇中（昭和31年7月16日～9月16日）の消費行動と性格との関係を考察したものである。性格テストとしては Bernreuter personality Inventory とクレペリンを使用した。対象者は18才～19才の女子、120名。調査の結果は次のようであった。

高額消費者と低額消費者は共に性格的に、明瞭な線をえがき、中間的な弱い線を描いている者はない。特に高額消費者はM型を示している場合が多い。消費を決定するものとして、環境よりも、性格の方がより大きい要因を示している。クレペリンにおいても、高額消費者で浪費的傾向を示すものには、「情緒不安定」があらわれている。

次に消費にあたってのプランと実際の消費との関係を